

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2014年4月)

発表日2014年6月9日(月)

～輸入の大幅減少を背景に、経常収支(季節調整値)は4ヶ月ぶりの黒字に～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 副主任エコノミスト 高橋 大輝  
TEL : 03-5221-4524

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
					貿易収支	サービス収支		
2013	4月	7,844	9,311	▲ 7,808	▲ 5,336	▲ 2,472	18,066	
	5月	5,666	4,879	▲ 7,004	▲ 5,290	▲ 1,714	13,008	
	6月	3,777	4,257	▲ 8,817	▲ 6,009	▲ 2,809	13,957	
	7月	6,004	3,563	▲ 9,793	▲ 7,145	▲ 2,648	14,208	
	8月	1,571	1,643	▲ 9,601	▲ 6,408	▲ 3,193	12,134	
	9月	5,948	447	▲ 12,517	▲ 9,582	▲ 2,935	13,816	
	10月	▲ 1,543	780	▲ 12,070	▲ 8,636	▲ 3,434	13,874	
	11月	▲ 5,969	▲ 1,078	▲ 13,193	▲ 10,119	▲ 3,074	13,506	
	12月	▲ 6,799	305	▲ 12,815	▲ 9,293	▲ 3,522	13,960	
	2014	1月	▲ 15,890	▲ 5,826	▲ 18,213	▲ 13,770	▲ 4,444	13,719
		2月	6,127	▲ 361	▲ 11,892	▲ 8,529	▲ 3,363	13,492
		3月	1,164	▲ 7,829	▲ 18,870	▲ 15,667	▲ 3,203	12,545
4月		1,874	1,305	▲ 11,067	▲ 8,314	▲ 2,753	14,176	

(出所)財務省「国際収支統計」

## ○経常収支(季節調整値)は4ヶ月ぶりの黒字に

2014年4月の経常収支(原数値)は1,874億円の黒字(コンセンサス:3,379億円の黒字、レンジ:▲2,650～8,200億円)と、コンセンサスを下回る結果となった。季節調整値は、1,305億円の黒字と4ヶ月ぶりに黒字に回帰した。もともと、黒字幅の水準は低い。

季節調整値の内訳をみると、貿易赤字の大幅縮小(3月:▲15,667億円→4月:▲8,314億円)が経常収支改善の主因だ。輸入(前月比▲12.2%)が、環境税増税や消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減により、大幅減少したことが背景にある。また、第一次所得収支も前月比+13.0%と大きく増加し、経常収支の黒字化の下支えとなった。一方で、輸出は同▲3.0%と3ヶ月連続の減少である。足元の輸出は、貿易統計で各国別にみても米国向け、EU向け、ASEAN向けの各地域向けとも横ばい圏内の動きに留まっており、輸出の伸び悩みが経常収支の下押しとなっている。

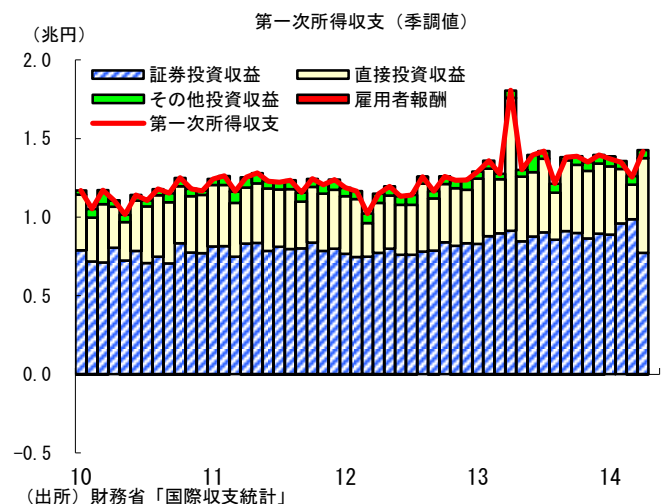
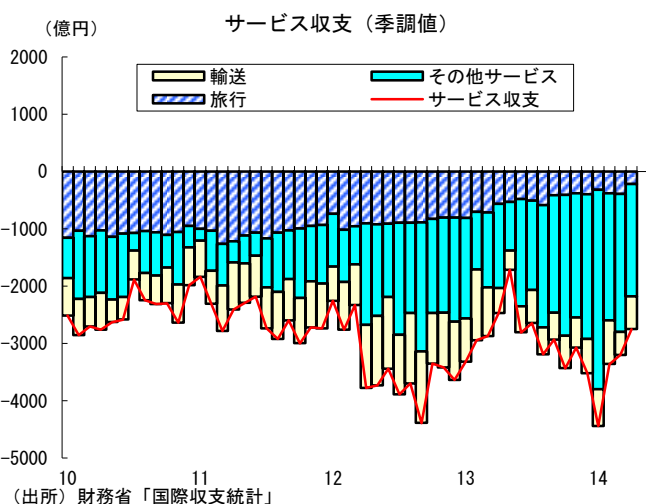
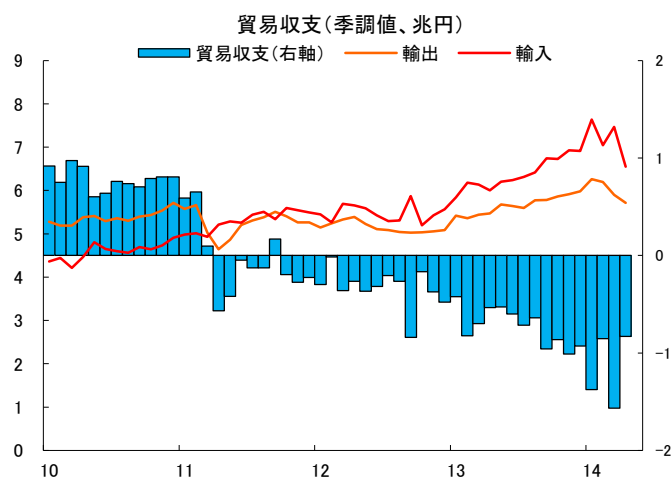
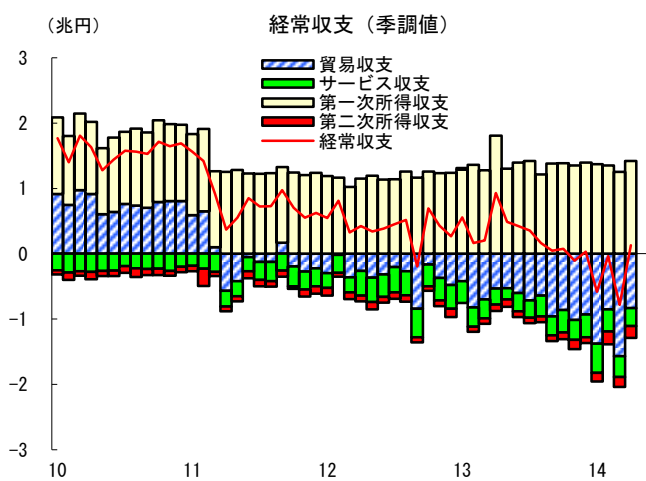
## ○証券投資収益が大幅減少

4月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は14,176億円の黒字(3月:12,545億円の黒字)と黒字幅が拡大した。内訳をみると、直接投資収益(3月:2,199億円黒字→4月:6,033億円黒字)の黒字額が増加したことが主因だ。もともと、3月に大幅減少しており、均してみれば基調に変化はないとみている。一方で、やや懸念されるのは証券投資収益(3月:9,867億円→4月:7,738億円)の黒字額が大幅減少したことだ。受取が減少、支払が増加することで、比較できる1996年以降で最大の減少幅(前月差▲2,129億円)となった。日本銀行によれば、資産が大幅に減った等の特殊な要因はみられないとのことである。4月の支払額急増は一時的なものである可能性があり、5月以降は横ばい圏の推移に戻るものとみているが、注意

が必要だ。サービス収支は、2,753億円の赤字（3月：3,203億円赤字）と3ヶ月連続で改善した。旅行収支（3月：393億円赤字→4月：218億円赤字）、その他サービス収支（3月：2,410億円赤字→4月：1,960億円赤字）が赤字幅を縮小したことが背景にある。旅行収支は訪日外客数の増加を背景に受取が増加基調で推移する中、赤字幅が縮小傾向で推移している。

### ○先行きは黒字基調での推移が見込まれる

このように4月の経常収支（季節調整値）は、4ヶ月ぶりに黒字となった。なお、5月の貿易統計上中旬速報をみると、輸出は依然低迷しており、5月の経常収支が黒字を維持できるかは微妙なところだ。ただし、先行きの経常収支については、黒字基調での推移が定着してくると見込んでいる。輸出は海外経済の持ち直しなどを背景に増加が見込まれ、輸入は駆け込み需要の反動減の影響が徐々に剥落することで増加基調に転じるものの、増加ペースは駆け込み需要による押し上げがなくなった分緩やかなものとなろう。こうした動きから、貿易赤字は縮小傾向で推移するとみている。第一次所得収支は、海外経済の改善や豊富な対外資産などを背景に増加基調での推移が見込まれよう。総じてみれば、輸出入の動向によっては一時的に赤字になる可能性もあるが、経常収支は黒字基調で推移するものとみている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。